

昭和女大文家政 鈴木キミ子

○平井 三恵

1. 人体の腰部を前・後・側面からみると異なった形態を示している。タイトスカートにおいては、この腰部前後の体型差を、主としてダーツによって適合させているが、脇線の作図においてもこの差を考慮して設定することがのぞましいのではないかと考え本実験を行なった。

2. スライディングゲージ・ヒューズ法を併用し、腰部を計測した。被験者は18~22歳の健康な女子学生100名で、体操用メリヤスワンピースを着用、胴部の最も細いと思われる位置にゴムテープをあて、ウエストラインとし、直立正常姿勢時において、腹部と腰部の最も突出した部位より各2~3cm下までを実測し、脇・前後部縦切断シルエット・横切断シルエットをとった。これから立体模型をつくり、これと縦横切断シルエットから脇線の位置・曲線を検討し、外観観察も行ない、タイトスカートの脇線を作図し、前記と同条件の学生200名につき着用実験を行なったところ、補正が少なく比較的好ましく適合した。

3. 後部はヒップラインを、前部は腹位を基点として腰部脇線を作図することがのぞましいのではないかと考える。